

# ニホンジカの被害対策について

下伊那地方事務所林務課 よしざわ まさゆき 芳沢 雅行

## 要 旨

飯田・下伊那地域では、シホンジカによる、幼齢造林木の枝葉食害や壮齢林木の剥皮による枯損被害が著しく、有効な被害防止対策を検討するため、「長野県飯伊地区シカ対策協議会」を設置し、生息調査をはじめ有害鳥獣駆除による個体数管理等の取り組みを行っている。今回は、低コストで効果的な被害防止対策として「シカ被害防止対策試験地」を設定したので、設定の状況と効果について報告する。

## はじめに

飯伊地区の野生鳥獣による農林業被害については、年約5億円に達し、年々増加している。

とりわけ、シカ被害は、総被害額の35%を占め、造林木への食害が著しく、果樹・野菜・水稻等の農作物被害もある。また、被害区域も、遠山谷、大鹿村をはじめ、竜東地域へ拡大し、最近では竜西地域へも広がる傾向にある。造林木への食害は、スギ・ヒノキの幼令木の枝葉食害のほか、壮齢林木の幹への剥皮による枯損木被害も多く見られ、林業の不振と相まって極めて深刻な状況に立ち至っている。

### 1 シカ被害防止対策試験地設定に至った経緯

平成9年8月、長野県林業公社（以下「公社」という。）から、天龍村、大鹿村、上村、南信濃村の4



村の区域に係る新植事業について、シカによる被害が終息するまでの間、事業を極力見合わせたい旨の意向が示された。この方針に対し、飯伊地区シカ対策協議会（以下「協議会」という。）では、県下屈指の林業地の振興にマイナス要因として、大きな影響を与えることは必至であると受け止め、数回にわたり幹事会等を開催し、また公社との協議も重ねた結果、今後とも被害対策等の取り組み如何によっては、平成10年度以降も新植事業の新規契約は継続されることになった。

～灌木から下草まで食べ尽くされている。(大鹿村)～ このことから、協議会では公社の業務方針に対する意見と対応策を集約することと合わせ、シカ被害対策への取り組み方針を次のとおり決定し、実行している。

- ① ライトセンサス調査等シカ生息状況調査の継続実施。(平成2年より調査開始。)
- ② 低コストで効果的な手法による、シカ被害防止対策試験地の設定。
- ③ 効果的な有害鳥獣駆除の実施(広域共同駆除の実施)
- ④ 有害鳥獣駆除従事者確保のため、狩猟免許取得の督励(平成9年度、新規取得90件)
- ⑤ 捕獲個体の有効利用(新たな食肉加工品の開発と生産。ハム、ジャーキー、缶詰等)



～ライトセンサスによる生息状況調査(上村)～

- ⑥ 助成制度の拡充（飯伊森林組合・飯田市森林組合では、捕獲報奨金制度を新設）
- ⑦ 関係機関へ要請活動の展開。
- ⑧ 協議会組織の拡充（生息域が竜西地域に広がる傾向にあり、また、上伊那・諏訪・佐久地方等にも被害が出ていることから、県の組織への拡充が必要。）

とりわけ、協議会の最重点対策として、シカ被害防止対策試験地の設定については、生息状況調査から生息数が多く確認され、また被害額も大きいことから、大鹿村、上村、南信濃村の3村4箇所で実施することとし、その試験方法については、抜本的な被害対策を視野に入れ、従来から篤林家で行われている手法も採用し、低廉かつ簡易な方法を模索し、公社造林地、個人有林で、協議会の幹事が自ら実践することとした。

## 2 シカ被害防止対策試験地設定と効果状況

平成9年11月、12月にかけて、被害の著しい、大鹿村、上村、南信濃村の3村4箇所の公社造林地外のヒノキ林分に、従来から篤林家で実践されていた手法も含め、低廉かつ簡易で効果があると考えられる、9つの防除法法で試験地を設定した。設定作業は、協議会員が自ら実行した。



～ 平成9年11月18日、大鹿試験地設定 後方に食害で枯れたヒノキが見える。 ～

シカ被害防止対策試験地設定内容

試験地名	試験項目	数量	林況	設定日
大鹿試験地 (牧休A)	荒縄の巻き付け	82本	ヒノキ 20年生	平成9年11月18日
	ビニール被覆針金の巻き付け	93本		
	ビニールテープの巻き付け	50本		
大鹿試験地 (牧休B)	人毛の吊り下げ	0.10ha	ヒノキ 20年生	平成9年11月18日
上試験地	威嚇音発生装置（サウンドパンチャ）の設置	1基	ヒノキ 20年生	平成9年11月18日
	忌避剤（カブサイシン）噴霧装置設置	1基		
南信濃試験地	ペットボトルシェルターの施用	100本	ヒノキ 20年生	平成9年12月3日
	ヘキサチューブの施用	100本		

大 鹿 試 験 地

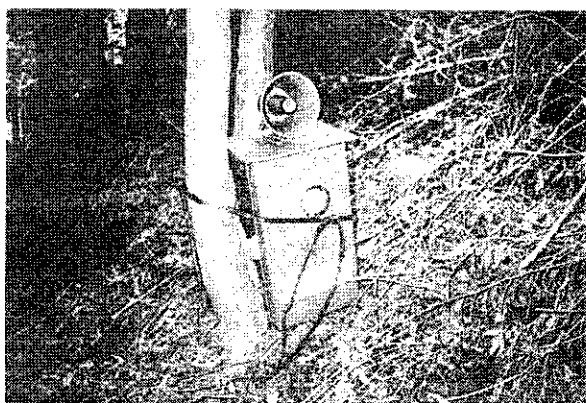


～ 荒縄等巻き付け ～

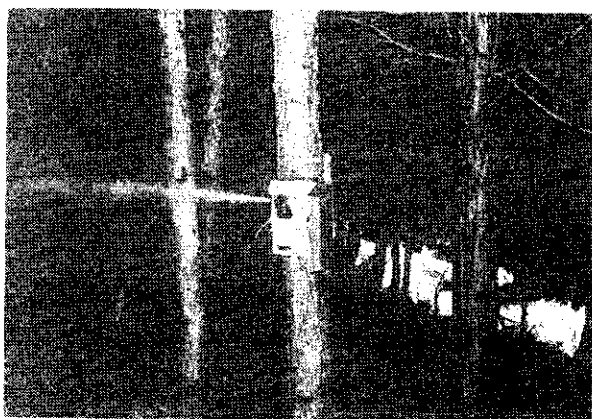


～ 人毛吊り下げ ～

上 試 験 地



～ 威嚇音発生装置 (サウンドパンチャー) ～

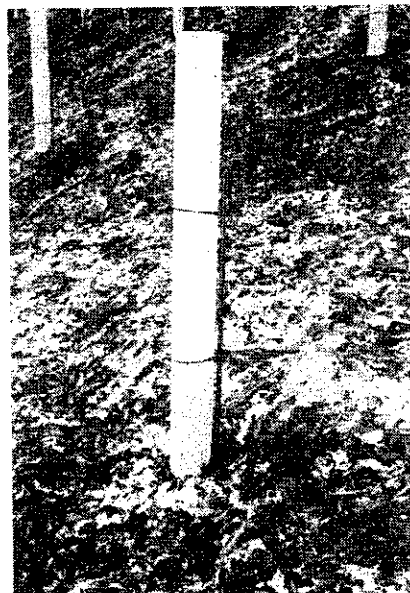


～ 忌避剤噴霧装置 (カプサイシン) ～

## 南 信 濃 試 験 地



～ ペットボトルシェルター設置 ～



～ ヘキサチューブ設置 ～

約半年後の効果確認は、会員が現地調査（平成10年5月22日）により行い、概ね下記のとおりで、試験地域内の新たな剥皮等の被害はなく、効果は良好であった。

### 効 果 調 査 の 結 果

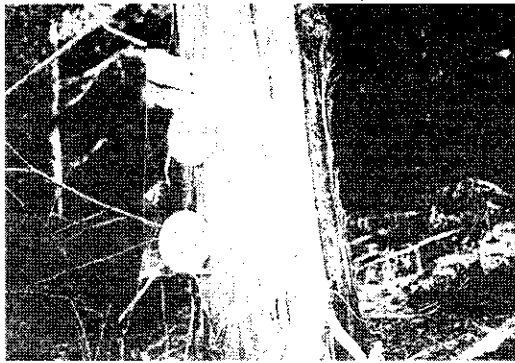
試 験 地 名	効 果 調 査 の 結 果 及 び 考 察
大鹿試験地 (A)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施木に被害なし。</li> <li>・設定区域に隣接して2本の被害を確認</li> <li>・針金巻き付け木の一部に針金の巻き付け状況がきつくなっているものがあった。</li> <li>・対象区の設定が必要</li> </ul>
大鹿試験地 (B)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区域内に被害なし</li> <li>・設定区域に隣接して3本の被害を確認</li> <li>・対象区の設定が必要</li> </ul>
上 試 験 地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効半径50mを越えたあたりに新たな被害木2本を確認</li> <li>・調査区、対象区の明確な設定が必要</li> </ul>
南 信 濃 試 験 地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施木に被害なし</li> <li>・ヘキサチューブ倒伏：13本、ペットボトル倒伏：6本、枯損：4本</li> <li>・対象区の設定が必要</li> </ul>

\* 全ての試験区域内の新たな被害なし

\* 全ての試験地について半年くらいの間隔で効果調査を継続する必要がある。

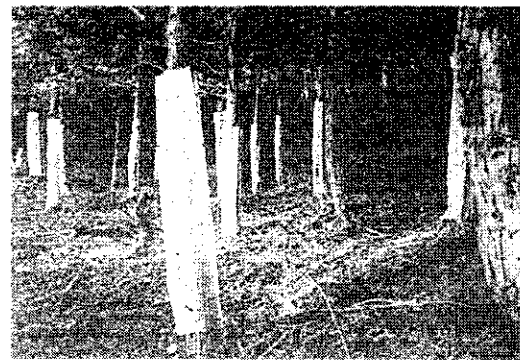
平成10年11月19日に新たに4種類の手法による試験地を大鹿村・上村に設定するとともに、約1年後の効果調査を実施した。

大鹿試験地



～ 忌避剤（アンチボア）の吊り下げ ～

上試験地



～ ウッドガードの取り付け ～

新たな試験地の設定

試験地名	試験項目	数量	設定日
大鹿試験地（牧休B）	忌避剤（アンチボア）の吊り下げ	0.10ha	平成10年11月19日
上試験地（大平B）	グリーンコップ取り付け	180本	平成10年11月19日
上試験地（蕨平A）	ウッドガードの取り付け	80本	平成10年11月19日
上試験地（蕨平B）	グリーンコップの取り付け	0.20ha	平成10年11月19日

効果調査の結果

試験地名	効果調査の結果と考察
大鹿試験地（牧休A）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニールテープ（荷造用）巻き付け木に2本の被害を確認</li> <li>・針金巻き付け木に針金の巻き付けがきつくなっており緩めた。</li> <li>・設定区域の近接・隣接木に被害なし</li> </ul>
大鹿試験地（牧休B）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区域内に1本の被害を確認</li> <li>・設定区域に隣接して新たに2本の被害を確認</li> <li>・周囲に張った縄の切断2箇所修復</li> </ul>
上試験地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効半径50m内に新たな被害木3本を確認</li> <li>・威嚇音発生装置の蓄電池の消耗が激しく作動が不規則になって、おり交換した。</li> </ul>
南信濃試験地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘキサチューブ消失・破損：4本、一部破損：25本</li> <li>・ペットボトル消失・破損：3本、一部破損：13本</li> <li>・ペットボトル施用木食害：4本</li> <li>・ペットボトル施用木枯損：3本</li> <li>・ペットボトル施用木の枝葉に直射太陽光線による日焼けによる枯損現象が見られた。</li> <li>・ヘキサチューブは劣化が進み、軽い衝撃でも容易に破損する状態になっている。</li> </ul> <p>対象区被害率（緩傾斜地 69%）：（急傾斜地 49%）</p>

おわりに

試験を実施した結果は、概ね良好であったが、各試験地とも今後さらに調査を継続し、設置経費と効果のバランス、消耗品等の交換など維持管理経費の算定を行いながら、低コストで効果的な手法を林家等へ普及啓発を行っていきたい。